

総 括 編

管内の概要	・ ・ ・ ・ ・	1
圏域の紹介	・ ・ ・ ・ ・	2 ～ 3
管内図と庁舎の現況	・ ・ ・ ・ ・	4 ～ 5
消防の歴代管理者	・ ・ ・ ・ ・	6 ～ 7
消防本部、消防署の組織	・ ・ ・ ・ ・	8
消防本部、消防署の事務分掌	・ ・ ・ ・ ・	9 ～ 1 1
消防相互応援協定の状況	・ ・ ・ ・ ・	1 1
消防本部の沿革	・ ・ ・ ・ ・	1 2 ～ 2 3

甘木・朝倉消防本部の基本方針

めざそう 住民の安全 そして安心

重点施策事項

- 1 住民のニーズに応える防災情報の提供
- 2 住民のための消防行政サービスの徹底
- 3 事務の簡素化・効率化と活力ある職場作りの推進
- 4 自己意識の改革（態度・服装・笑顔・傾聴）と実行
- 5 報告・連絡・相談・的確な指示の徹底
- 6 体力・身心の強化と健康の保持増進
- 7 安全管理で明るく楽しい快適な職場環境の維持

職員綱領

- 1 吾等消防職員は職責を自覚し、規律の保持につとめよう。
- 2 吾等消防職員は身心の鍛錬に励み、知識技術の向上をはかろう。
- 3 吾等消防職員は和合の精神をもって団結し、親しまれる消防人になろう。

事故防止一斉唱和

- 1 安全呼称の徹底
- 2 左右の確認・最徐行の徹底
- 3 赤信号・一旦停止の徹底
- 4 車両誘導は確実に
- 5 優先通行権を過信しない

管内の概要

● 位置

組合消防を構成する中核の朝倉市は、福岡県の中央部、福岡市の南東約40km、久留米市の北東約20kmに位置し、東に東峰村、西に筑前町の3市町村、管内人口83,149人からなります。

● 地勢

管内を北西から南東へ貫く最重要幹線道路である国道386号から南側は盆地となっていますが、同道路から北側、すなわち管内の北東部から東部にかけては古処山をはじめとする600～900m級の山々が連なっています。この山地の中には、江川ダム・寺内ダムがあり福岡市など周辺地域への水資源供給の役割を果たしています。更に令和3年3月に小石原川ダムが江川ダム上流に建設されました。

また、管内の南側には、境界にほぼ沿う形で筑後川が流れています。

● 観光

全国疏水百選にも選定されている朝倉市の「堀川用水」は、江戸時代に当時の最新技術で築造されました。これは筑後川から取水する山田堰、人力で掘られた堀川、水田を潤す水車群などからなり、築造から2世紀を経た現在も朝倉地域の農業を支え、自然と調和した美しい水景を醸し出しています。

特に堀川用水のはじまりである山田堰は、舟通し・魚道・砂利吐きを持つ日本唯一の傾斜堰床式石張堰として歴史的にも貴重なものです。その優れた工法は、アフガニスタン復興支援のかんがい用水モデルとして活用されています。

平成26年に山田堰・堀川用水・水車群は、世界かんがい施設遺産に登録されました。

朝倉市菱野の国史跡「三連水車」は平成29年7月九州北部豪雨により甚大な被害を受けましたが、懸命な復旧作業により稼働を再開し、現在では周辺の広大な水田を潤す日本最古の実働する水車として活躍しています。



山田堰



堀川用水



三連水車

甘木・朝倉広域市町村圏事務組合

- 人 口 83,149 人
- 世帯数 34,314 世帯
- 面 積 365.78 Km²



甘木・朝倉圏域は、福岡県のほぼ中央部に位置し、朝倉市・筑前町・東峰村の3市町村で構成されている地域です。地域の形状は東西に長く、西に小郡市や筑紫野市、東に大分県日田市、北に嘉麻市、南にうきは市と接しています。

朝 倉 市

- 人 口 51,133 人
- 世帯数 21,634 世帯
- 面 積 246.71 Km²



菱野の三連水車

筑後川北岸に広がる朝倉市は、三連水車などでも知られるのどかな田園都市。その豊かな自然は、博多万能ネギ、柿や梨などの果物、全国でも希少な淡水ノリ「スイゼンジノリ」などの特産品を生み出してくれます。

また、筑前の小京都と称される城下町「秋月」や、夏の風物詩「鵜飼い」が有名な原鶴温泉など、来訪者を魅了する多彩な観光資源も魅力です。

平成29年7月九州北部豪雨災害からの一日も早い復旧・復興へ歩みを進めています。

東 峰 村

- 人 口 1,962 人
- 世帯数 831 世帯
- 面 積 51.97 Km²



伝統工芸品「小石原焼」

東峰村は、福岡県中央部の東端に位置する山間の村で、北部の旧小石原地区では窯業、南部の旧宝珠山地区では農業が盛んです。国の重要文化財に指定されている「岩屋神社」と「奇岩群」、「日本棚田百選」に認定された「竹の棚田」、「平成の名水百選」に選ばれた「岩屋湧水」、経済産業大臣指定伝統的工芸品に選ばれた「小石原焼」、樹齢200～600年の巨木群「行者杉」等、様々な観光資源があります。

筑 前 町

- 人 口 30,054 人
- 世帯数 11,849 世帯
- 面 積 67.10 Km²



ファーマーズマーケットみなみの里

米・麦・大豆の生産を中心とした、田園風景広がる筑前町。「都会から近い田舎」が魅力のまちです。「緑あふれる 豊かで便利な とかいなか」を町のテーマに町づくりを行っています。かつての大刀洗飛行場跡地に建設した町立大刀洗平和記念館では、平和の大切さを後世に語り継いでいます。写真はファーマーズマーケットみなみの里。令和2年「筑前みなみの里」として道の駅に登録され、連日多くの人々が地元の新鮮な食材を買いに訪れています。

管内図と庁舎の現況



甘木・朝倉消防本部

甘木・朝倉消防署



所在地	朝倉市一木18番地20
敷地面積	7,054.86㎡
構造	鉄筋コンクリート造3階建
延面積	2,906.19㎡
管轄区域	朝倉市・朝倉郡一円

東部分署



所在地 朝倉市杷木寒水 9 2 番地 1
敷地面積 1, 4 4 2. 6 0 m²
構造 鉄筋コンクリート造 2 階建
延面積 4 6 4. 1 2 m²
管轄区域 朝倉市杷木地域

西部分署



所在地 朝倉郡筑前町下高場 3 5 9 9 番地 3
敷地面積 1, 9 7 8. 8 3 m²
構造 鉄筋コンクリート造 2 階建
延面積 7 2 0. 8 7 m²
管轄区域 筑前町

朝倉出張所



所在地 朝倉市宮野 2 1 4 2 番地 2
敷地面積 1, 8 3 3. 0 0 m²
構造 鉄筋コンクリート造 2 階建
延面積 3 9 0. 1 5 m²
管轄区域 朝倉市朝倉地域

東出張所



所在地 朝倉郡東峰村大字小石原鼓 8 3 7 番地 1 1
敷地面積 1, 6 5 9. 8 0 m²
構造 鉄筋コンクリート造 鋼板葺 2 階建
延面積 5 7 6. 7 3 m²
管轄区域 東峰村

消防の歴代管理者

甘木市消防本部（昭和40年3月1日～昭和51年9月30日）

市長

歴代	氏名	就任年月日	退任年月日	在任期間	備考
初代	塚本倉人	昭和40年3月1日	昭和47年11月17日	7年9月	
二代	富田英一	昭和47年11月18日	昭和51年5月21日	3年7月	
三代	塚本倉人	昭和51年6月20日	昭和51年9月30日	4月	

消防長

歴代	氏名	就任年月日	退任年月日	在任期間	備考
初代	塚本倉人	昭和40年3月1日	昭和42年12月21日	2年10月	事務取扱
二代	高橋清美	昭和42年12月22日	昭和49年6月10日	6年6月	
三代	山崎房美	昭和49年6月11日	昭和51年9月30日	2年4月	

消防署長

歴代	氏名	就任年月日	退任年月日	在任期間	備考
初代	高橋清美	昭和40年3月5日	昭和48年11月30日	8年9月	
二代	山崎房美	昭和48年12月1日	昭和51年9月30日	2年10月	

甘木・朝倉消防本部（昭和51年10月1日～現在）

理事長

歴代	氏名	就任年月日	退任年月日	在任期間	備考
初代	塚本倉人	昭和51年10月1日	昭和63年6月19日	11年9月	甘木市長
二代	友納昭智	昭和63年6月20日	平成3年3月28日	2年9月	甘木市長
三代	中島茂嗣	平成3年5月7日	平成8年5月15日	5年0月	甘木市長
四代	佐藤誠良	平成8年7月14日	平成12年7月13日	4年0月	甘木市長
五代	塚本勝人	平成12年7月19日	平成18年3月19日	5年8月	甘木市長
		平成18年5月2日	平成22年4月22日	3年11月	朝倉市長
六代	森田俊介	平成22年4月23日	平成30年4月22日	8年0月	朝倉市長
七代	林裕二	平成30年4月23日	在職中		朝倉市長

副理事長

歴代	氏名	就任年月日	退任年月日	在任期間	備考
初代	藤原重実	昭和51年10月1日	昭和54年4月30日	2年7月	朝倉町長
二代	林一二三	昭和54年5月14日	昭和62年4月9日	7年11月	杷木町長
三代	徳田善友	昭和62年5月7日	平成元年7月23日	2年3月	夜須町長
四代	藤井金與	平成元年8月3日	平成3年4月30日	1年9月	朝倉町長
五代	稲永勝己	平成3年5月7日	平成7年4月30日	3年11月	三輪町長
六代	熊谷昭巳	平成7年5月12日	平成11年4月30日	3年11月	杷木町長
七代	手柴豊次	平成11年5月12日	平成17年3月21日	5年10月	三輪町長
		平成17年5月19日	平成21年4月23日	3年11月	筑前町長
八代	田頭喜久己	平成21年5月20日	在職中		筑前町長

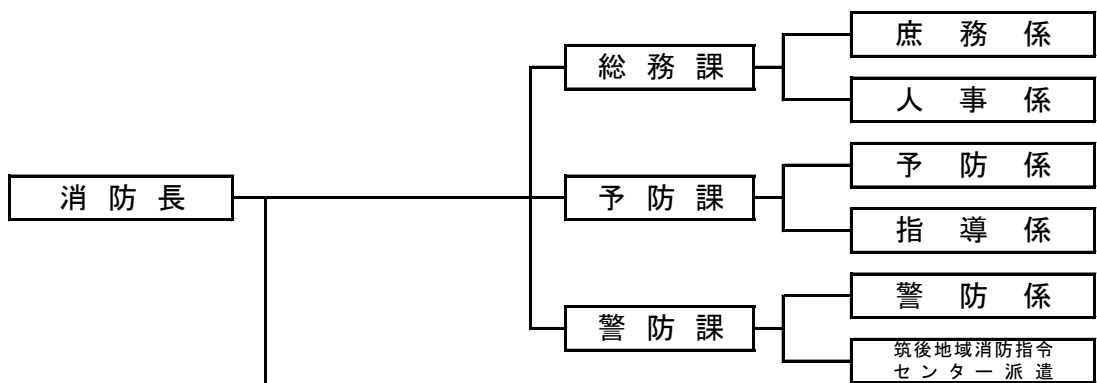
消防長

歴 代	氏 名	就 任 年 月 日	退 任 年 月 日	在 任 期 間
初 代	山 崎 房 美	昭和 5 1 年 1 0 月 1 日	昭和 5 3 年 3 月 3 1 日	1 年 6 月
二 代	白 石 公 海	昭和 5 3 年 4 月 1 日	昭和 5 7 年 2 月 2 8 日	3 年 1 1 月
三 代	山 田 昌 實	昭和 5 7 年 3 月 1 日	昭和 6 3 年 3 月 3 1 日	6 年 1 月
四 代	空 閑 道 雄	昭和 6 3 年 4 月 1 日	平成 4 年 3 月 3 1 日	4 年 0 月
五 代	立 石 新	平成 4 年 4 月 1 日	平成 8 年 3 月 3 1 日	4 年 0 月
六 代	西 岡 隆 士	平成 8 年 4 月 1 日	平成 1 1 年 2 月 1 0 日	2 年 1 1 月
七 代	川 藤 市 郎	平成 1 1 年 2 月 1 1 日	平成 1 5 年 3 月 3 1 日	4 年 1 月
八 代	金 子 義 郎	平成 1 5 年 4 月 1 日	平成 1 9 年 3 月 3 1 日	4 年 0 月
九 代	舟 木 潤 一	平成 1 9 年 4 月 1 日	平成 2 2 年 3 月 3 1 日	3 年 0 月
十 代	和佐野 一 文	平成 2 2 年 4 月 1 日	平成 2 3 年 3 月 3 1 日	1 年 0 月
十一代	竹 井 隆	平成 2 3 年 4 月 1 日	平成 2 5 年 3 月 3 1 日	2 年 0 月
十二代	池 田 伸 一	平成 2 5 年 4 日 1 日	平成 2 7 年 3 月 3 1 日	2 年 0 月
十三代	大 楠 喜 彦	平成 2 7 年 4 日 1 日	平成 3 1 年 3 月 3 1 日	4 年 0 月
十四代	田 中 良 平	平成 3 1 年 4 月 1 日	令和 2 年 3 月 3 1 日	1 年 0 月
十五代	大 楠 隆 行	令和 2 年 4 月 1 日	在 職 中	

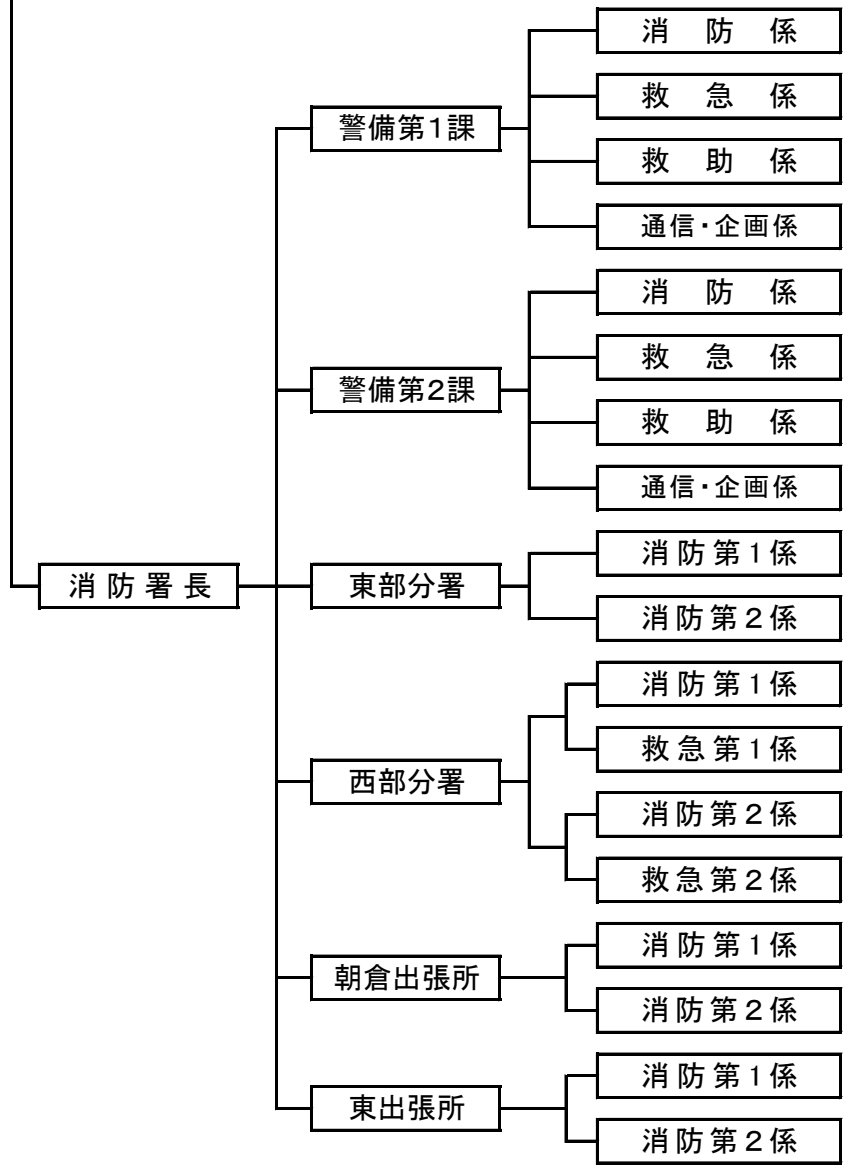
消防署長

歴 代	氏 名	就 任 年 月 日	退 任 年 月 日	在 任 期 間
初 代	山 崎 房 美	昭和 5 1 年 1 0 月 1 日	昭和 5 2 年 1 0 月 3 1 日	1 年 1 月
二 代	山 田 昌 實	昭和 5 2 年 1 1 月 1 日	昭和 5 5 年 3 月 3 1 日	2 年 5 月
三 代	空 閑 道 雄	昭和 5 5 年 4 月 1 日	平成 元 年 3 月 3 1 日	9 年 0 月
四 代	立 石 新	平成 元 年 4 月 1 日	平成 4 年 3 月 3 1 日	3 年 0 月
五 代	川 島 勝 治	平成 4 年 4 月 1 日	平成 8 年 1 0 月 3 1 日	4 年 6 月
六 代	川 藤 市 郎	平成 8 年 1 1 月 1 日	平成 1 0 年 3 月 3 1 日	1 年 5 月
七 代	立 野 紀 幸	平成 1 0 年 4 月 1 日	平成 1 2 年 3 月 3 1 日	2 年 0 月
八 代	金 子 義 郎	平成 1 2 年 4 月 1 日	平成 1 3 年 3 月 3 1 日	1 年 0 月
九 代	立 野 紀 幸	平成 1 3 年 4 月 1 日	平成 1 4 年 3 月 3 1 日	1 年 0 月
十 代	金 子 義 郎	平成 1 4 年 4 月 1 日	平成 1 5 年 3 月 3 1 日	1 年 0 月
十一代	林 武 好	平成 1 5 年 4 月 1 日	平成 1 9 年 3 月 3 1 日	4 年 0 月
十二代	大 場 豊	平成 1 9 年 4 月 1 日	平成 2 0 年 3 月 3 1 日	1 年 0 月
十三代	野 村 良 和	平成 2 0 年 4 月 1 日	平成 2 2 年 3 月 3 1 日	2 年 0 月
十四代	小 島 誠	平成 2 2 年 4 月 1 日	平成 2 3 年 3 月 3 1 日	1 年 0 月
十五代	大 熊 勝 径	平成 2 3 年 4 月 1 日	平成 2 5 年 3 月 3 1 日	2 年 0 月
十六代	田 中 俊 次	平成 2 5 年 4 月 1 日	平成 2 6 年 3 月 3 1 日	1 年 0 月
十七代	橋 本 良 二	平成 2 6 年 4 月 1 日	平成 2 7 年 3 月 3 1 日	1 年 0 月
十八代	羽 野 勉	平成 2 7 年 4 月 1 日	平成 2 9 年 3 月 3 1 日	2 年 0 月
十九代	仲 道 優	平成 2 9 年 4 月 1 日	令和 2 年 3 月 3 1 日	3 年 0 月
二十代	塚 本 善 久	令和 2 年 4 月 1 日	在 職 中	

消防本部の組織



消防署の組織



消防本部、消防署の事務分掌

消 防 本 部

総務課

庶務係

- (1) 例規及び令達に関すること。
- (2) 文書の審査及び収受・発送に関すること。
- (3) 予算に関すること。
- (4) 物品の出納保管に関すること。
- (5) 契約に関すること。
- (6) 財産に関すること。
- (7) 公印に関すること。
- (8) 消防施設に関すること。
- (9) 車両等の燃料の管理に関すること。
- (10) 消防事務の総合企画及び調整に関すること。
- (11) 庁舎に関すること。
- (12) 課の庶務に関すること。
- (13) その他各課、係に属しないこと。

人事係

- (1) 職員の任免、服務、分限及び懲戒その他身分に関すること。
- (2) ほう賞及び表彰に関すること。
- (3) 職員の給与及び福利厚生に関すること。
- (4) 職員の教養、監察に関すること。
- (5) 職員の公務災害及び賞じゅつに関すること。
- (6) 渉外に関すること。
- (7) 職員の給与品及び貸与品に関すること。
- (8) 消防職員委員会に関すること。

予防課

予防係

- (1) 課の庶務に関すること。
- (2) 危険物の規制に関すること。
- (3) 少量危険物及び指定可燃物の規制に関すること。
- (4) 液化石油ガス販売事業許可の意見書交付に関すること。
- (5) 危険物施設等の違反処理に関すること。
- (6) 危険物取扱者に関すること。
- (7) 危険物施設等の査察計画及び実施に関すること。
- (8) 防災協会に関すること。
- (9) その他危険物等の火災予防に関すること。

指導係

- (1) 建築物の同意事務に関すること。
- (2) 防火対象物の消防用設備等に関すること。
- (3) 防火管理者に関すること。

- (4) 旅館、ホテル等の通知書の交付に関すること。
- (5) 防火思想の普及宣伝の計画及び実施に関すること。
- (6) 防火対象物の違反処理に関すること。
- (7) 消防設備士に関すること。
- (8) 予防技術資格者に関すること。
- (9) 防火対象物の査察計画及び実施に関すること。
- (10) 火災の調査に関すること。
- (11) 幼年消防クラブ、少年消防クラブ及び婦人防火クラブの育成指導に関すること。
- (12) 自衛消防隊等の育成指導に関すること。
- (13) 消防設備士会に関すること。
- (14) 予防統計及び広報に関すること。
- (15) その他火災予防に関すること。

警防課

警防係

- (1) 課の庶務に関すること。
- (2) 警防業務の運営及び管理に関すること。
- (3) 救急救命士養成に関すること。
- (4) 救急業務高度化に関すること。
- (5) 筑後地域消防通信指令業務に関すること。
- (6) 消防の応援協定に関すること。
- (7) その他警防に関すること。

消 防 署

警備第1課 ・ 警備第2課

消防係

- (1) 課の庶務に関すること。
- (2) 職員の服務規律に関すること。
- (3) 職員の配置に関すること。
- (4) 職員及び消防団員等の訓練指導に関すること。
- (5) 職員の給与品及び貸与品の管理に関すること。
- (6) 広報に関すること。
- (7) 庁舎及び備品等の維持管理に関すること。
- (8) 少量危険物及び指定可燃物の規制事務の指導に関すること。
- (9) 火災等の原因及び損害の調査に関すること。
- (10) 防火対象物の消防用設備等の指導に関すること。
- (11) 予防査察に関すること。
- (12) 火災予防の実施及び指導に関すること。
- (13) 諸証明及び各種届出に関すること。
- (14) その他警備に関すること。

救急係

- (1) 救急統計に関すること。
- (2) 救急機械器具施設の運用及び整備保全に関すること。
- (3) 救急に関すること。

救助係

- (1) 救助統計に関すること。
- (2) 潜水に関すること。
- (3) 消防機械器具施設の運用及び整備保全に関すること。
- (4) 水・火災、その他災害の予防警戒及び防ぎよに関すること。
- (5) 救助の技術研究及び訓練計画に関すること。
- (6) 消防対象物の調査指導に関すること。
- (7) 消防特別警戒に関すること。
- (8) 地理水利に関すること。
- (9) 救助に関すること。
- (10) 危険物規制事務の指導に関すること。

通信・企画係

- (1) 消防統計及び消防情報に関すること。
- (2) 気象に関すること。
- (3) 火災警報に関すること。
- (4) 非常招集に関すること。
- (5) 通信・指揮運用に関すること。
- (6) 警防事務の調査研究及び企画立案に関すること。
- (7) 消防機械器具施設の企画整備及び管理に関すること。
- (8) 消防機械器具等の改良考案に関すること。
- (9) 警防計画及び訓練に関すること。
- (10) その他通信・企画に関すること。

分署 ・ 出張所

消防第1係、消防第2係、救急第1係、救急第2係

- (1) 警備第1課・警備第2課、消防係、救急係、救助係、通信・企画係に同じ。

消防相互応援協定の状況

協 定 名	協 定 市 町 村	締 結 年 月 日	協 定 の 内 容
高速自動車道における消防相互応援協定	福岡県下16消防本部	昭和61年10月15日	火災・事故発生時に相互の消防力を活用し被害を最小限に防止する
福岡県消防相互応援協定	福岡県内の全市町村全消防本部	平成 元年 3月25日	県内において大規模な災害が発生した場合に広域応援体制を確立することにより、災害による被害を最小限に防止する
隣接常備消防相互応援協定	日田玖珠広域行政事務組合	平成 2年 2月26日	火災・地震等の災害発生時に相互の消防力を活用し被害を最小限に防止する
消防相互応援協定	田川地区消防組合	平成 5年 6月 1日	火災・地震等の災害発生時に相互の消防力を活用し被害を最小限に防止する
消防相互応援協定	飯塚地区消防組合	平成 6年12月 1日	火災・地震等の災害発生時に相互の消防力を活用し被害を最小限に防止する
常備消防相互応援協定	久留米広域市町村圏事務組合	平成21年 4月 1日	火災・地震等の災害発生時に相互の消防力を活用し被害を最小限に防止する
常備消防相互応援協定	筑紫野太宰府消防組合	平成21年 4月 1日	火災・地震等の災害発生時に相互の消防力を活用し被害を最小限に防止する

消防本部の沿革

年 次		主 な で き ご と
昭和40年	3月	○甘木市消防本部（署）創設、市長が消防長事務取扱 ○甘木市消防本部（署）発足 ○職員20名採用
	4月	○幹部職員5名採用 ○仮庁舎にて業務開始
	10月	○水そう付消防ポンプ自動車〔Ⅱ型〕購入 ○救急業務任意実施
昭和41年	1月	○消防庁舎完成移転
	9月	○財団法人日本船舶振興会、財団法人日本消防協会、甘木ライオンズクラブ出資により救急自動車の寄贈を受ける
	11月	○消防専用無線（中短波）基地局1局、移動局1局開局
昭和42年	1月	○甘木市危険物安全協会発足
	3月	○消防庁長官表彰旗を受賞 ○筑後地区消防設備士会甘木部会発足
	10月	○社団法人日本損害保険協会より消防ポンプ自動車〔BD－Ⅰ型〕の寄贈を受ける
	12月	○消防専用無線（中短波）移動局1局増設
昭和43年	4月	○救急業務開始（指定実施）
	11月	○職員4名採用 職員29名となる
昭和44年	3月	○職員1名退職
	4月	○職員1名採用
	8月	○消防長を専任とし、消防署長兼務とする
昭和45年	5月	○有線放送マイクサイレン設置
昭和46年	4月	○職員7名採用 職員36名となる ○辻婦人防火クラブ発足
	6月	○甘木市危険物安全協会を甘木・朝倉危険物安全協会に改名 ○甘木市少年消防クラブ結成発足
	10月	○三輪町の救急業務を受託
昭和47年	3月	○社団法人日本損害保険協会より救急自動車の寄贈を受ける
	5月	○事務職員1名採用 職員37名となる
昭和48年	1月	○甘木ロータリークラブより救急自動車の寄贈を受ける
	6月	○職員7名採用 職員44名となる
	11月	○職員2名採用 職員46名となる
	12月	○朝倉町の救急業務を受託
昭和49年	1月	○消防専用無線（超短波）基地局1局、移動局5局開局
	3月	○甘木市少年消防クラブ、県知事表彰を受賞

年 次		主 な で き ご と
昭和49年	6月	○職員1名退職（他消防本部へ転出）職員45名となる
	7月	○夜須町の救急業務を受託 ○職員1名退職（他消防本部へ転出）職員44名となる
昭和50年	1月	○甘木・朝倉危険物安全協会より防火広報車の寄贈を受ける（予防課配置）
	3月	○化学消防ポンプ自動車〔Ⅱ型〕購入（本署配置） ○甘木市少年消防クラブ、全国少年消防クラブ運営指導協議会より表彰旗受賞
	4月	○職員2名採用 職員46名となる ○開庁10周年記念式典開催
昭和51年	3月	○甘木市少年消防クラブ、日本防火協会表彰を受ける
	4月	○福岡県消防学校へ教官として1名派遣（1年間）
	10月	○甘木・朝倉広域市町村圏事務組合消防発足
	12月	○社団法人日本損害保険協会より救急自動車〔2B型〕の寄贈を受ける （西部分署配置）
昭和52年	1月	○職員12名採用 職員58名となる
	3月	○水そう付消防ポンプ自動車〔Ⅱ型〕2台購入（東部・西部分署配置） ○消防救急指令装置導入
	4月	○東部分署開庁（仮庁舎） ○職員17名採用 職員75名となる ○福岡県消防学校へ教官として職員1名派遣（2年間）
	8月	○東部分署新庁舎へ移転 ○テレオートガイド装置によるテレホンサービス開始
	10月	○潜水救助隊実働開始
	11月	○社団法人日本損害保険協会より救急自動車〔2B型〕の寄贈を受ける （朝倉出張所配置） ○通信専従員任命
	12月	○西部分署開庁
昭和53年	3月	○職員1名退職 職員74名となる
	4月	○職員1名採用 職員75名となる ○職員8名採用 職員83名となる
	6月	○水そう付消防ポンプ自動車〔Ⅰ－A型〕購入（朝倉出張所配置）
	7月	○朝倉出張所開庁 ○司令車2台購入（東部分署・西部分署配置）
	8月	○水そう付消防ポンプ自動車〔Ⅱ型〕購入（本署配置）
	10月	○職員1名退職、5名採用 職員87名となる
	12月	○福岡県共済農業協同組合連合会より救急自動車〔2B型〕の寄贈を受ける

年 次		主 な で き ご と
昭和53年		(本署配置)
昭和54年	2月	○社団法人日本損害保険協会より消防ポンプ自動車〔BD－Ⅰ型〕の寄贈を受ける (本署配置) ○消防用無線中継局開局
	3月	○人員輸送車購入(総務課配置)
	4月	○福岡県消防学校へ教官として職員1名派遣(1年間)
	6月	○甘木ライオンズクラブよりレサシアン1体の寄贈を受ける
	10月	○甘木・朝倉危険物安全協会より査察車の寄贈を受ける(予防課配置) ○辻婦人防火クラブ(昭和46年4月4日発足)の事務局を消防本部に移管
	11月	○甘木・朝倉少年婦人防火委員会発足
昭和55年	5月	○職員1名退職 職員86名となる
	6月	○資材運搬車〔2tトラック〕購入(本署配置) ○救命ゴムボート購入
	9月	○司令車購入(朝倉出張所配置)
	11月	○財団法人日本防火協会より防火広報車の寄贈を受ける(予防課配置)
昭和56年	2月	○辻婦人防火クラブ、財団法人日本消防協会より小型動力ポンプの寄贈を受ける
	3月	○消防本部(署)庁舎建設用地購入 ○甘木市少年消防クラブ、全国少年消防クラブ運営指導協議会より優良表彰を受ける
	7月	○消防本部広報誌「こちら119」創刊号発行(年2回発行とする)
	11月	○三奈木婦人防火クラブ発足
昭和57年	2月	○職員2名退職 職員84名となる ○職員1名退職(福岡県消防学校へ転出) 職員83名となる
	3月	○消防本部(署)新庁舎完成移転 ○無線によるサイレン制ぎょ開始
	4月	○事務連絡車購入(総務課配置)
	8月	○司令車購入(本署配置)
	9月	○三奈木婦人防火クラブ、財団法人日本消防協会より小型動力ポンプの寄贈を受ける
昭和58年	4月	○職員8名採用 職員91名となる
昭和59年	2月	○三奈木婦人防火クラブ、財団法人日本消防協会より昭和58年度定例表彰を受ける
	6月	○職員1名退職 職員90名となる
	9月	○高圧ガス製造施設完成
	12月	○福岡県共済農業協同組合連合会より救急自動車〔2B型〕の寄贈を受ける (東部分署配置)
昭和60年	1月	○水そう付消防ポンプ自動車〔Ⅱ型〕購入(本署配置)
	4月	○開庁20周年記念式典開催

年 次		主 な で き ご と
昭和60年	4月	○消防本部「20年のあゆみ」発行
昭和61年	2月	○はしご付消防ポンプ自動車〔15m級〕購入（本署配置）
	3月	○甘木ライオンズクラブより救急自動車〔2B型〕の寄贈を受ける（西部分署配置）
	4月	○庁用車購入（総務課配置）
昭和62年	2月	○大分自動車道一部開通（鳥栖～朝倉）に伴う救急業務開始 ○社団法人日本自動車工業会より救急自動車〔2B型〕の寄贈を受ける（本署配置）
	5月	○建設省九州地方建設局主催の筑後川水防演習が実施される（朝倉町大字古毛）
	11月	○職員1名退職 職員89名となる
昭和63年	3月	○救助工作車購入（本署配置） ○職員1名退職 職員88名となる ○甘木市少年消防クラブ、全国少年消防クラブ運営指導協議会より優良少年消防クラブ表彰を受ける
	4月	○職員3名採用 職員91名となる
	11月	○福岡県共済農業協同組合連合会より救急自動車〔2B型〕の寄贈を受ける（朝倉出張所配置）
平成2年	3月	○大分自動車道一部開通（朝倉～日田）に伴う救急業務開始 ○社団法人日本自動車工業会より救急自動車〔2B型〕の寄贈を受ける（本署配置）
	4月	○職員4名採用 職員95名となる
	8月	○職員1名理事長事務部局に出向 実員94名となる
	9月	○社団法人日本損害保険協会より消防ポンプ自動車〔CD－Ⅰ型〕の寄贈を受ける（本署配置）
平成3年	4月	○職員6名採用 職員100名となる
	5月	○甘木・朝倉危険物安全協会より予防指導車の寄贈を受ける（予防課配置）
	6月	○筑後地区消防設備士会甘木部会より視聴覚資料〔オートスライドプロゼクター〕の寄贈を受ける（予防課配置）
	12月	○福岡県共済農業協同組合連合会より救急自動車〔2B型〕の寄贈を受ける（西部分署配置）
平成4年	2月	○水そう付消防ポンプ自動車〔Ⅱ型〕購入（西部分署配置）
	3月	○職員1名退職 職員99名となる ○空中散布資器材（バケット他）購入
	4月	○大規模山林災害総合訓練実施（甘木市大字菩提寺）
	5月	○全国植樹祭に伴う警備実施（夜須町大字櫛木）
	6月	○職員1名退職 職員98名となる
	7月	○甘木・朝倉危険物安全協会、平成4年度消防関係安全功労者消防庁長官表彰を

年 次		主 な で き ご と
平成4年	10月	受ける ○完全週休二日制を実施
平成5年	2月 4月 6月 7月 9月 11月	○水そう付消防ポンプ自動車〔Ⅱ型〕購入（東部分署配置） ○職員3名採用 職員101名となる ○幼年消防クラブ（40団体）発足 ○甘木朝倉少年婦人防火委員会、名称を変更し甘木・朝倉幼少年婦人防火委員会となる ○甘木土木事務所主催の筑後川水防演習が実施される（朝倉町大字田中） ○甘木・朝倉危険物安全協会、名称を変更し甘木・朝倉防災協会となる ○甘木・朝倉危険物安全協会、平成5年度安全功労者内閣総理大臣表彰を受ける ○大規模山林災害総合訓練実施（杷木町大字志波） ○甘木・朝倉防災協会より、内閣総理大臣表彰に伴う記念事業として防火広報車の寄贈を受ける（予防課配置） ○緊急通報システム（あさくらあんしんライン）実動開始 ○消防緊急通信指令施設〔Ⅱ型〕導入に向けて通信指令室を増築
平成6年	2月 4月 9月 10月 12月	○水そう付消防ポンプ自動車〔Ⅰ－A型〕購入（朝倉出張所配置） ○職員1名理事長事務部局に出向 実員100名となる ○職員15名採用 職員115名となる ○司令車2台購入（東部分署、西部分署配置） ○大規模山林災害総合訓練実施（夜須町大字三箇山） ○消防本部（署）庁舎改修工事完成
平成7年	2月 3月 4月 8月 10月	○職員1名退職 職員114名となる ○司令車購入（東出張所配置） ○消防緊急通信指令施設〔Ⅱ型〕実動開始 ○阪神・淡路大震災に伴う応援出動（タンク車1台） ○甘木・朝倉消防署東出張所落成 ○水そう付消防ポンプ自動車〔Ⅰ－A型〕購入（東出張所配置） ○福岡県共済農業協同組合連合会より救急自動車〔2B型〕の寄贈を受ける（東出張所配置） ○事務連絡車購入（総務課配置） ○職員1名退職 職員113名となる ○東出張所開庁 ○職員2名採用 職員115名となる ○人員輸送車〔29人乗り〕購入（総務課配置） ○開庁30周年記念式典開催

年 次		主 な で き ご と
平成7年	10月	○消防本部「30年のあゆみ」発行
平成8年	3月	○化学消防ポンプ自動車〔Ⅰ型〕購入（本署配置） ○救急自動車〔2B型〕購入（東部分署配置） ○職員1名退職 職員114名となる
	4月	○職員1名採用 職員115名となる
	11月	○高圧ガス製造施設設置
平成9年	3月	○消防ポンプ自動車〔CD-Ⅰ型〕購入（本署配置） ○水そう付消防ポンプ自動車〔Ⅱ型〕購入（本署配置） ○救急自動車〔2B型〕購入（本署配置） ○甘木市少年消防クラブ、全国少年消防クラブ運営指導協議会より優良表彰を受ける
	4月	○職員1名採用 職員116名となる ○職員1名退職 職員115名となる
	6月	○福岡県救急医療情報システムのパソコン設置 ○甘木土木事務所主催の筑後川水防演習が実施される（朝倉町大字田中）
	8月	○司令車購入（本署配置）
	10月	○司令車購入（朝倉出張所配置）
	11月	○集団救急事故訓練実施（甘木鉄道）
平成10年	1月	○福岡県共済農業協同組合連合会より救急自動車〔2B型〕寄贈を受ける （朝倉出張所配置）
	3月	○職員1名退職 職員114名となる
	4月	○職員1名採用 職員115名となる
平成11年	1月	○障害者用緊急通報ファクシミリ電話運用開始
	2月	○職員1名退職 職員114名となる
	3月	○高規格救急自動車購入（本署配置） ○職員2名退職 職員112名となる
	4月	○救急伝送受信装置締結（久留米大学病院・高度救命救急センター） ○高規格救急自動車運用開始、救急救命士実働開始
	10月	○筑後地区消防設備士会甘木部会より一体型液晶ビデオ映写機の寄贈を受ける （予防課配置）
平成12年	2月	○甘木ライオンズクラブよりレサシアン3体の寄贈を受ける
平成13年	1月	○財団法人日本消防協会よりリトルアン20体の寄贈を受ける
	2月	○財団法人日本消防協会より防火広報車の寄贈を受ける（本署配置）
	3月	○高規格救急自動車購入（西部分署配置） ○甘木ライオンズクラブより防災用資材運搬自動車の寄贈を受ける（本署配置）
		○職員1名退職 職員111名となる

年 次		主 な で き ご と
平成13年	4月	○職員1名退職 職員110名となる
		○職員2名採用 職員112名となる
	6月	○庁用車購入(総務課配置)
	11月	○はしご付消防自動車[30m級]購入(本署配置)
平成14年	1月	○社団法人日本損害保険協会より救助工作車の寄贈を受ける(本署配置)
	2月	○甘木・朝倉広域市町村圏事務組合消防委員会(委員15名)を設置する
	3月	○財団法人日本防火協会より防火広報用視聴覚資器材補助金の交付を受ける
	4月	○職員1名採用 職員113名となる
	5月	○福岡県・甘木朝倉地区合同総合防災訓練実施(甘木市大字長田)
	6月	○職員1名退職 職員112名となる
平成15年	3月	○消防総合OAシステム導入
		○職員4名退職 職員108名となる
	4月	○職員4名採用 職員112名となる
	5月	○予防指導車購入(予防課配置)
	8月	○消防総合OAシステム第2次導入
平成16年	11月	○高規格救急自動車購入(東部分署配置)
	1月	○甘木・朝倉消防本部基本方針決定
	4月	○福岡県総務部消防防災安全課へ実務研修として職員1名派遣(1年間)
	6月	○福田婦人防火クラブ発足
平成17年	2月	○甘木ロータリークラブよりエアーテントの寄贈を受ける
	3月	○職員1名退職 職員111名となる
	4月	○職員2名採用 職員113名となる
		○安川婦人防火クラブ発足
	5月	○開庁40周年記念式典開催
		○甘木土木事務所主催の筑後川水防演習が実施される(朝倉町大字田中)
	9月	○蜷城婦人防火クラブ発足
平成18年	12月	○金川婦人防火クラブ発足
		○甘木女性防火クラブ発足
	3月	○水そう付消防ポンプ自動車[Ⅱ型]購入(西部分署配置)
		○高規格救急自動車購入(朝倉出張所配置)
平成18年		○職員1名退職 職員112名となる
		○三奈木婦人防火クラブ(昭和56年11月発足)の事務局を公民館に移管
		○甘木市少年消防クラブを朝倉市少年消防クラブに改名
	4月	○職員3名採用 職員115名となる
平成18年		○朝倉市少年消防クラブ比良松中学校班、杷木中学校班設立

年 次		主 な で き ご と
平成18年	4月	○上秋月婦人防火クラブ発足
	5月	○筑後地区消防設備士会甘木部会を筑後地区消防設備士会朝倉部会に改名
	7月	○高木女性防火クラブ発足
	10月	○指揮車購入(本署配置)
	12月	○秋月婦人防火クラブ発足
平成19年	1月	○水そう付消防ポンプ自動車〔Ⅰ型〕購入(東部分署配置)
	3月	○職員3名退職 職員112名となる ○朝倉市少年消防クラブ、県知事表彰を受賞 ○財団法人日本防火協会より防火防災訓練用資器材補助金の交付を受ける
	4月	○福岡県消防学校へ教官として職員1名派遣(2年間) ○職員3名採用 職員115名となる
	5月	○金川婦人防火クラブを金川女性防火クラブに改名
	6月	○防火広報車購入(予防課配置)
平成20年	2月	○高規格救急自動車購入(本署配置)
	3月	○職員2名退職 職員113名となる
	4月	○職員2名採用 職員115名となる
	9月	○筑後地区消防設備士会朝倉部会、創立40周年記念事業で高齢者世帯(250世帯)に住宅用火災警報器を設置
平成21年	2月	○高規格救急自動車購入(西部分署配置)
	3月	○職員3名退職 職員112名となる
	4月	○職員4名採用 職員116名となる
	8月	○IP携帯位置情報表示装置運用開始
	11月	○司令車購入(西部分署配置)
平成22年	2月	○水そう付消防ポンプ自動車〔Ⅰ型〕購入(朝倉出張所配置)
	3月	○はしご付消防自動車〔30m級〕オーバーホール ○職員5名退職 職員111名となる
	4月	○職員7名採用 職員118名となる
	8月	○司令車購入(東部分署配置)
	12月	○消防本部庁舎耐震診断実施
平成23年	2月	○朝倉自家用自動車協会より高規格救急自動車の寄贈を受ける(本署配置) ○水そう付消防ポンプ自動車〔Ⅰ型〕購入(本署配置)
	3月	○東日本大震災に伴う緊急消防援助隊(消火隊)派遣 ○職員6名退職 職員112名となる
	10月	○消防緊急通信指令システム改修工事
	12月	○消防本部庁舎耐震補強工事

年 次		主 な で き ご と
平成24年	1月	○指揮車購入(本署配置)
	3月	○消防ポンプ自動車〔CD-1型〕購入(本署配置) ○東出張所庁舎耐震診断実施
	4月	○職員5名採用 職員117名となる ○筑後地域消防通信指令事務協議会設置(8消防本部)
	5月	○事務連絡車購入(総務課配置)
	9月	○職員1名退職 職員116名となる ○全国瞬時警報装置(J-ALERT)設置
	12月	○司令車購入(朝倉出張所配置)
平成25年	2月	○水そう付消防ポンプ自動車〔I型〕購入(東出張所配置)
	3月	○職員6名退職 職員110名となる
	4月	○職員8名採用 職員118名となる ○福岡県消防長会県央地区会から福岡県消防長会県南地区会へ所属地区変更 ○筑後地域消防通信指令事務協議会へ事務局員として職員1名派遣
	11月	○事務連絡車購入(本署配置)
平成26年	3月	○化学消防ポンプ自動車〔I型〕購入(本署配置) ○金川女性防火クラブ、「優良女性防火クラブ」県知事表彰を受賞 ○職員5名退職 職員113名となる
	4月	○職員9名採用 職員122名となる ○西部分署庁舎耐震診断実施
	9月	○西部分署庁舎増改築設計
	10月	○はしご付消防自動車〔30m級〕オーバーホール
	11月	○甘木ロータリークラブより心肺蘇生訓練用人形5体、AEDトレーナー8台の寄贈を受ける
平成27年	3月	○高規格救急自動車購入(東部分署配置) ○職員9名退職 職員113名となる
	4月	○職員2名採用 職員115名となる ○再任用職員1名採用
	6月	○東部分署・朝倉出張所庁舎耐震診断実施
	10月	○開庁50周年記念式典開催 ○一般財団法人救急振興財団より心肺蘇生訓練生体人形(成人・乳児用)1体、AEDトレーナー2台の寄贈を受ける
	11月	○筑後地域消防指令センター仮運用開始(職員4名派遣)
平成28年	1月	○甘木・朝倉防災協会、福岡県知事より防火思想普及感謝状を受ける
	2月	○高規格救急自動車購入(朝倉出張所配置) ○消防ポンプ自動車〔CD-I型〕購入(西部分署配置)

年 次		主 な で き ご と
平成28年	3月	○筑後地域消防指令センター開庁式開催 ○西部分署庁舎増改築工事完了及び完成披露式開催 ○再任用職員1名退職 ○職員1名退職 職員114名となる
	4月	○職員6名採用 職員120名となる ○西部分署新体制運用開始 ○筑後地域消防指令センター運用開始 ○熊本地震に伴う緊急消防援助隊(消火隊・支援隊)派遣(第1～4次出動)
	6月	○甘木・朝倉防災協会より創立50周年記念事業として軽資材運搬車の寄贈を受ける(本署配置)
	10月	○一般財団法人救急振興財団より心肺蘇生訓練用人形2体、AEDトレーナー1台の寄贈を受ける
平成29年	1月	○職員1名退職 職員119名となる
	2月	○高規格救急自動車購入(東出張所配置)
	3月	○第1回消防署開放イベント開催 ○職員5名退職 職員114名となる
	4月	○三奈木婦人防火クラブ、「優良女性防火クラブ」県知事表彰を受賞 ○職員5名採用 職員119名となる
	7月	○平成29年7月九州北部豪雨が発生 7月5日に九州北部を中心に発生した集中豪雨で、甘木・朝倉消防本部管内においては死者36名、行方不明者2名、多数の物的被害を出し激甚災害に指定される ○平成29年7月九州北部豪雨により朝倉市及び東峰村が被災し、県内消防相互応援隊(1,053隊3,860名)及び緊急消防援助隊(2,562隊9,166名)の応援を受ける ○平成29年7月九州北部豪雨により東部分署庁舎が被災する ○平成29年7月九州北部豪雨災害現場出動中の東部分署水そう付消防ポンプ自動車〔I型〕が土石流により流失する
平成30年	3月	○高規格救急自動車購入(西部分署配置) ○東部分署及び朝倉出張所車庫シャッター設置 ○平成29年7月九州北部豪雨災害により被災した東部分署浄化槽の復旧工事実施 ○高木女性消防クラブ、「優秀女性防火クラブ」県知事表彰を受賞 ○職員3名退職 職員116名となる
	4月	○職員6名採用 職員122名となる ○福岡県総務部防災危機管理局消防防災指導課へ実務研修として職員1名派遣(2年間)
	6月	○浮羽みのうライオンズクラブより心肺蘇生訓練人形一式の寄贈を受ける

年 次		主 な で き ご と
平成30年	6月	○水そう付消防ポンプ自動車〔Ⅰ－A型〕購入(本署配置)
	7月	○平成30年7月豪雨に伴う緊急消防援助隊(消火隊)派遣(第1次出動、広島県)
	10月	○浮羽みのうライオンズクラブより心肺蘇生訓練人形一式の寄贈を受ける
	11月	○筑後地区消防設備士会朝倉部会より創立50周年記念事業としてミニ消防自動車1台、 煙体験ハウス一式の寄贈を受ける
平成31年	1月	○高規格救急自動車購入(本署配置)
	2月	○支援車〔Ⅲ型〕購入(本署配置)
	3月	○職員9名退職 職員113名となる
	4月	○職員7名(内女性1名)採用 職員120名(内女性1名)となる (当消防本部初女性消防士)
	9月	○女性消防職員の仮眠室等の整備のため本部庁舎改修工事を実施 ○職員1名退職 職員119名となる
令和2年	1月	○職員1名退職 職員118名となる
	2月	○はしご付消防自動車〔30m級 先端屈折式〕購入(本署配置) ○三和シャッター株式会社九州工場より水圧開鍵装置付シャッター訓練装置の寄贈を受ける ○白石山無線中継局舎の撤去(解体)工事を実施
	3月	○職員9名退職 職員109名となる
	4月	○職員1名採用 職員110名となる ○再任用職員5名採用
	5月	○朝倉ライオンズクラブから新型コロナウイルス感染対策品(マスク)の寄贈を受ける
	7月	○令和2年7月豪雨に伴う緊急消防援助隊(消火隊・支援隊)派遣(第1～2次出動、熊本県)
	8月	○甘木ロータリークラブから新型コロナウイルス感染対策品(プラスチックガウン)の寄贈を受ける
令和3年	2月	○救助工作車〔Ⅱ型〕購入(本署配置)
	3月	○総務省消防庁より緊急消防援助隊に係る無償使用物品として高機能救命ボートの貸与を受ける ○仮眠室等の整備のため本部庁舎改修工事を実施 ○高圧ガス施設改修工事を実施 ○再任用職員3名退職 再任用職員2名となる ○指令システム・無線デジタル部分改修整備を実施
	4月	○職員2名採用 職員112名となる
令和4年	2月	○水そう付消防ポンプ自動車〔Ⅰ－A型〕購入(西部分署配置) ○外壁、屋上防水補強及び仮眠室整備のため東部分署・朝倉出張所の改修工事を実施

年 次		主 な で き ご と
令和4年	3月	○職員3名退職 職員109名となる
	4月	○職員1名(女性1名)採用 職員110名(内女性2名)となる ○再任用職員1名採用 再任用職員3名となる